一般社団法人 日本トイレ協会　協会ニュース24 - 1号
2024年 4月発行

Contents

JAPAN TOILET ASSOCIATION

1 - 2　メンテナンス研究会30周年記念事業
3 - 4　能登半島地震緊急報告
5 - 6　リレートーク　書籍「列車・トイレの世界」の紹介
7 - 12　日本トイレ協会４０周年にあたり
「温故知新」 ～これまでの協会と今後～
13　2024年度　第40期　定時総会のお知らせ
14　メンテナンス研究会　第197回定例研究会報告
15　会員報告
長崎初の「4タイプの公衆トイレ」誕生！
16　お知らせ
26　私の推薦トイレ
27　新入会員のご紹介

お知らせ

メンテナンス研究会30周年記念事業

白倉正子　メンテナンス研究会　副代表幹事 / アントイレプランナー代表

「人とものと水との関わり」サイト公開のお知らせ

日本トイレ協会メンテナンス研究会（以下：メンテ研）は、1992 年 4 月 1 日に発足し、2024 年 4 月には 32 周年を迎えました。メンテ研では 2022 年より 30 周年記念事業を 3 つ実施しておりました。その 1 つとして「人とものと水の関わり」サイトを公開しました。

■記念サイト URL
「人とものと水との関わり」サイト（メンテ研公式サイト内）
https://www.toiletmaintenance.org/hito_mono_mizu/

上記の図：「(一社）日本トイレ協会メンテナンス研究会 HP（人とものと水との関わり）より引用」

日本のトイレは「世界一」と謳われて久しくなりますが、その背景に「清掃が行き届いている」「悪臭や汚れが少ない」などが含まれていると思われます。トイレの維持管理（メンテナンス）の世界は、快適性に重要な関わりがある反面、地味で意識の低く、研究情報が少ない時代が長く続きました。

そんな状況下で有志が集まって、研究活動を始めたのがメンテ研です。そしてその中核に常にいらっしゃったのが、29 年間代表を務めてくださった坂本菜子氏（コンフォートスタイリスト／現在はメンテナンス研究会名誉研究会員（顧問））です。坂本菜子さんは日本トイレ協会においても、副会長を務められ、本会の発展に大きく貢献してくださった恩人です。

坂本菜子さんはトイレの維持管理に対する先駆者として研究や啓発活動を行ってきました。そしてそれらをまとめた書籍を数冊発刊なさっておられ、その一部はメンテ研で研究した情報や、会員と共に歩んできた歴史が含まれております。

このサイトは、そんな坂本菜子さんの著書「世界のトイレグラフティ」「トイレのデザインとメンテナンス」より記事を抜粋したものです（オーム社より 1998 年に同時発刊）。主に、メンテナンスの視点になる話題や、海外のトイレが、美しい写真と共に掲載されています。　この情報を、皆様にご活用いただけるように、世界に広げ、後世に残るよう、インターネットのサイトに再加工し、公開に踏み切りました（なお表記や数値は、当時のそのまま掲載しております）。

メンテ研としても、先人らの残してくださった財産を、大切に保管していく所存です。数少ない貴重な記録として、皆様の日々の研鑽にお役立ていただければ幸いです。

※なお、本サイトの文章や写真に関する著作権は、坂本菜子氏に属します。また管理は（一社）日本トイレ協会メンテナンス研究会が行います。もし転記などを希望される方は、メンテナンス研究会のお問合せメールアドレス（jimu@toiletmaintenance.org）までご一報ください。

掲載記事（抜粋）

「世界のトイレグラフティ」 より	「トイレのデザインとメンテナンス」より
・“水の心”を知り尽くしたヨーロッパの伝統美 ・“和”の知恵と気配が香る日本料亭の厠 ・人生の“先輩”達が集うシニアハウス ・中国の発展はトイレの有料化にも ・フランスの感性が生んだ、便座アート	・道具置き場は、トイレメンテの死角 ・大便器ブースはメンテの最大の“難所” ・悪臭と詰まりの原因は尿石 ・汚れにくく、使いやすくが小便器の課題 ・災害時のトイレ対策とメンテナナンス

◆坂本菜子氏より（本サイトより転記)◆

ふりかえってみれば、コンフォートスタイリストの肩書きを名乗って活動を始めたのは昭和 60 年頃の事。コンフォート（快適）どころか最も不快な場所になってしまっているトイレをなんとかならないものか。公共のみならず、オフィスや家庭においても。こうした疑問が私の活動の出発点になりました。現在では、暮らしや環境に合わせメンテナンス性にも配慮されたコンフォートスペース（快適空間）としてのトイレが、私たちの身の回りに多く存在しています。

このウェブサイトは、世界や日本の各地で出会った水まわりとメンテナンス性に配慮した先人たちの知恵やものの考え方をまとめた２冊の本から､改めて抜粋した記事を掲載しています｡当時の記録ではありますが､これからも変わり続ける日本のトイレの未来を考えるうえで、なんらかのヒントになれば幸いです。

◆日本トイレ協会メンテナンス研究会とは？◆

(一社)日本トイレ協会
メンテナンス研究会

ハード／ソフト両面からトイレメンテナンスに関する技術の多角的向上を図るとともに、社会一般の『日頃、目にすることの少ないトイレメンテナンス』への理解を深めるための調査・研究・提言を積極的に展開することを目指し、1992 年 4 月 1 日に発足。会員は 48（2024 年 4 月時点｡、法人研究会員 16 社、個人研究会員 32 名）現在の代表幹事は中森秀二。毎年 4 回程度の定例研究会を行っている。参加は誰でも可能。それ以外に､出版や啓発活動(講演･セミナーなど)を実施してきた。30 周年記念事業では、第 38 回全国トイレシンポジウムの企画（2022 年 10 月)、「公共トイレにおける清掃員の性別意識調査」（2022 年～ 2024 年）を行っている。
公式 HP：https://www.toiletmaintenance.org/

報告

能登半島地震緊急報告

第 32 回うんと知りたいトイレの話（2 月 15 日開催）より、
石川県在住の高橋未樹子理事（**コマニー株式会社**）のリポートです。

2024 年元旦の 16 時 10 分、石川県の能登地方でマグニチュード 7.6（最大震度 7）の地震が発生しました。1/7 ～ 8 は避難所になっている輪島中学校での炊き出し、1/18 からは七尾市能登島で民宿や民家の復興支援を行っているので、避難所や被災地の状況について報告します。

【1/7 ～ 8　輪島中学校での炊き出し】

能登地方に向かう道路が寸断され交通規制が敷かれる中、石川県の企業として何ができるのかを模索していたところ、輪島市から炊き出しの要請を受けて 1/7 ～ 8 に輪島中学校に行ってきました。輪島中学校には、当時約 1,000 人が避難をしていました。電気は 1/4 から通っていましたが水は使えず、2/12 現在も石川県内約 37,500 戸で断水が続いています。復旧の見通しは 2 月～ 3 月末、遅いところは 4 月以降と言われています。

輪島中学校には、物資は一見するとたくさん届いているようでした。テレビで言われているような支援物資（おむつや生理用品など）は輪島中学校には大量に届いていました。避難所の方に必要な物を聞くと、真っ先に出てきたのが「下着（パンツ）とズボン」です。輪島は高齢の方が多く、トイレ環境もよくないのでギリギリまで我慢をして失敗してしまう方がいるようです。上の服は最悪毎日でも着られますが、汚れた下着やズボンは履き替えたい。風呂に入れないし洗濯もできないので、下着は本当に重要です。また、生理用品はたくさん届いていたのですが、毎日使う女性も多いおりものシートはほとんど届いていなくて、おりものシートは非常に喜ばれました。マスコミで言われている必要な物と、実際の現場で必要とされている物は違いました。

食べ物については、1/7 の夜に届けられるというのが、おにぎり 150 個。1,000 人いるのにたったの 150 個。これでは何の足しにもならないので、150 個のおにぎりは他の避難所に回してもらい、避難所独自でお米を炊いてレトルトカレーを配りました。翌日の朝ご飯はもちろん届きません。昼ご飯に届いたのは、おにぎり 450 個。ただし全て賞味期限切れ。物資で届けられていたカップラーメンやカセットコンロが非常に役に立っていましたが、皆さん毎日カップラーメンで飽き飽きされていました。炊き出しの際には「ずっと野菜を食べていないので野菜をたくさん入れて」との要望を頂きました。野菜を取っていないので便秘になっている方も多かったです。

トイレについては、輪島中学校のトイレが洋式だったので、便器に袋をかぶせて携帯トイレを使っていました。ごみ収集がまだ行われていなかったので、汚物のごみが溜まる一方です。1/5 には仮設トイレが設置されましたが、和式であることや、雪が降る外に設置されるので寒いことから、使っている人は少なかったです。1/7 に宇和島市から昇降機付きのトイレカーも届き、高齢の方に非常に喜ばれていました。しかし、昇降機の使い方が分からず宇和島の方がそばについていないと使えない高齢者もいて、運用の仕方に課題を感じました。

トイレには汚物処理のために、24 時間体制で市の方がトイレに張り付いていました。汚物を触る人を限定して感染対策を行っていましたが、それでも 7 日の夜から体調不良者が続々出始め、あっちで吐いている、こっちで吐いているという状況で、市の方は嘔吐物の処理に走り回り、24 時間連続勤務の方や、食事をまともにとれていない方もいました。食事をとる間がなく、チョコレートを口にぱぱっと放り込んで走っていく職員。市の方が倒れるのではないかと心配になるほど現地は過酷な状況でした。この後、他の自治体から応援が入り、避難所の環境改善が進められたそうで少し安堵しています。

【1/18 ～　七尾市能登島でのボランティア活動】

1/18 からは七尾市能登島で、NPO 法人ユナイテッド・アースの石川支部として民宿や民家の片付けの支援を行っています。七尾市中心部の避難所や物資拠点にはたくさん物資が届いていたのですが、能登島にはあまり届いていなくて「水が足りない」と仰っている高齢者もいました。順に建物検査も入っていますが、能登島では 2/12 現在もまだ 1 枚も検査済みの張り紙を見かけていません。高齢者が多い能登島では、避難所にはいかず、床が隆起したまま、壁が崩れたまま、天井が落ちかけのままの自宅で生活している人もいます。

一番驚いたのは、「地震で崩れたので片付けて欲しい」と頼まれた部屋の家具や荷物がホコリを被っていたことでした。なぜこれほどにまでホコリが被っているのかを聞くと、2007 年 3 月 25 日に能登地方で起こった最大震度 6 強の地震で崩れ、高齢のため片付けることができず、ボランティアも頼んでいなくて、そのままになっていました。その崩れたものが 2023 年 5 月 5 日に起こった最大震度 6 強の地震でさらに崩れ、今回の 1 月 1 日の地震でさらに崩れたそうです。

能登島は物資も届きづらいですが、高齢者には「給水はどこでやっているのか」「ボランティアはどこにお願いすればいいのか」などの情報も届きづらく、自宅避難をしている高齢者や障害者をサポートする体制が必要だと痛感しました。

【3/19 の被災地の状況】

発災から 2 か月半以上たった 3/19 現在も、石川県内で避難所生活を送っている方は 8,468 人（1 次避難所：4,563 人、1.5 次避難所：105 人、2 次避難所：3,800 人）です。避難所に行かず、壊れかけた自宅で生活をしている人もたくさんいます。　断水も約 11,460 戸で続き、特に珠洲市においてはほぼ全域で断水が続いています。報道が減ってきたこともあるからなのか、3 月に入ってからは避難所での炊き出しボランティアも減り、市によっては行政からの食事の提供が週 1 回というところもあり、再び缶詰生活に戻ってしまっています。

少しずつ復興に向けての動きも進みつつありますが、いまだに食べることに困っている、トイレに困っている、というのが被災地の現状です。

【ボランティア活動をして思ったこと】

実際に現地に行って痛感したことは、水・トイレの大切さです。私自身もトイレが気になり、口を潤す程度しか水分を取らず、極力食べるのも控えていました。1/18 ～ 20 に七尾市で 2 泊しましたが、たった数日で思ったことが「流水で手を洗いたい、ゴクゴク水を飲みたい、お腹いっぱい食べたい」という人間として基本的なことでした。トイレが心配だったので、最初に輪島に行ったときには初めてのおむつにチャレンジしました。たった数日でも水やトイレに対するストレスは大きく。被災者のストレスは相当なものだと思われます。この状況を少しでも改善できるように、これからも地元企業として活動していきます。

浮き上がった浄化槽

津波で泥だらけのトイレ

輪島朝市

うんと知りたいトイレの話
『第 32 回 能登半島地震緊急報告』の概要は当協会ホームページで読むことができます。
『第 33 回 能登半島地震緊急報告 Part.2~ 能登半島地震から学ぶこと ~』も今後掲載予定です。

リレートーク

書籍「列車・トイレの世界」の紹介

細野直恒　運営委員 /NPO 法人にいまーる　理事

当協会には鉄道趣味の方々が多くおいでになります．鉄道趣味も広くて，小職は鉄道模型の収集をしている「模型鉄」ですが，その他には，全国の鉄道を乗り歩く「乗り鉄」，鉄道の写真を撮る「撮り鉄」，蒸気機関車の汽笛や車輪のドラフト音や駅のアンナウンスを収録する「音鉄」，鉄道関連の切符などの物品の取集をする「収集鉄」，途中下車で地域を楽しむ「降り鉄」，時刻表に被り着く「時刻表鉄」，鉄道の絵を専門に描く「絵画鉄」，母子で鉄道ファンという「ママ鉄・親子鉄」，普通は男性がメインの分野の中でも女性の鉄道ファンのことを「女子鉄」とかがあり，極め付きは，俳優の六角精児氏の車内で一杯したり，酒蔵に訪問する「呑み鉄」がNHKのBS番組で有名です．世間ではこれら鉄道ファンの方々は「鉄ちゃん」とか「鉄オタ」とか称されます．

ご紹介の「列車トイレの世界」（図１）の著者の清水洽氏は，出版当時は 80 代前半の方ですが，京大工学部を卒業後に（株）クボタへ就職し，汚泥焼却溶融や上下プラント事業に関連し，現在は NPO 法人 21 世紀水倶楽部や京大鉄研の OB で活躍されている鉄道ファンです．本の表紙は，少々鉄道お宅になりますが，昭和時代に急行列車として活躍した国鉄 183 系電車で，フロント部分は男性・女性トイレのサボを配している凝ったデザインです．その列車のトイレは普通車・グリーン車とも和式のみであり，地下線内での定期運行が前提となることから循環式汚物処理装置を全車に装備していました．

図１「列車トイレの世界」の本の表紙
列車トイレの世界　清水 治 著
丸善出版 2023　1,800 円（税別）

目次としては，次のような構成になっています．

第１章　日本の列車トイレの変遷
１-１　列車トイレの現状
１-２　トイレの歴史
第２章　汚物処理の方法
第３章　世界の列車トイレ
３-１　ヨーロッパ
３-２　アフリカ
３-３　アジア
３-４　アメリカ大陸
３-５　ユーラシア
第４章　列車トイレのこれから
４-１　列車トイレの新たな課題
４-２　さらに快適な空間を目指すために

小職の会社の研究所は，品川駅の東口に面していました．その前には大規模な操車場が控えており，まだ新幹線と共に東海道線が走っていました．表現は悪いのですが，当時の東海道線の列車は「垂れ流し式」でしたので，汚い話ですが，「黄害」の被害が周辺地域の問題になっていました．特に東海道線の上り列車では，東京駅の到着に近づいた品川あたりでは列車のトイレを使う乗客が多くなり，この問題が顕在化していました．

1968 年（昭和 43 年）に「列車トイレット改良の基本方式」が制定され，徐々に改善に向かいました．その後の列車のトイレの変遷を辿ってみると，

・消毒式として，汚物をベンゾールなどの消毒液と混ぜて粉砕し一旦タンクに貯えてから外部に排出しました．

・貯留式は初期の新幹線の方式で，汚水は全て床下のタンクに貯留して基地に戻って回収しました．

・しかし貯留式では容器が大きくなってしまう弊害があるため，フィルターで水分だけ再利用して容器を小型化する循環式が開発されました．昭和時代の航空旅客機もこの方式でした

・現在は「プシュ」という音の真空式に置き換わって来ています．（図２）これは航空旅客機にも採用されていますが，旅客機の場合では外部との気圧差を利用していますが，列車はそれが出来ないので，ポンプで吸引しています．この本では，それらの便器の構造図を用いて説明をしており，流石に工学系の方が書いた本という感じで書かれています．

以上が前半で書かれており，後半は世界の列車のトイレについて沢山書かれています．著者は仕事柄，会議などで各国を旅行する場合は，列車を頻繁に利用しました．現在の日本ではＪＲと私鉄とも列車のトイレは 100% 循環式か真空式になっていますが，アジアやアフリカはまだ垂れ流し式の方が主流で，欧米でもローカル線の一部は垂れ流し式が走っています．アルプという斜面の牧場に，牛が放牧されている風光明媚なスイスでもローカル線の列車の一部はそれであり，覗くとレールを見る事が出来て長閑でした．まあ当地は列車の本数が日本の都市圏ほどでは走っていない事と，トイレから自然への循環という考えかも知れません．

本著の最後には列車トイレの新たな課題という章で纏めています．昭和の時代では鉄道は安価な移動手段として活用されていました．しかし道路の整備が進むようになってからは，陸上輸送が増えて来て，鉄道はその競争に負けて赤字路線では廃線になってしまう例が目立ちます．一方，鉄道は排気ガスが出ないので，エコな乗り物としての価値も見直されて来ています．そのため観光列車などでは，付加価値として車椅子でも十分に空間を確保したトイレを備える列車も増えつつあります．当協会でも柏書房から「快適なトイレ」という本を出版しましたが，このような考え方を，次世代の列車のトイレに応用して行くことが，鉄道の今後の存続に繋がる手立てになるかも知れません．（図３）

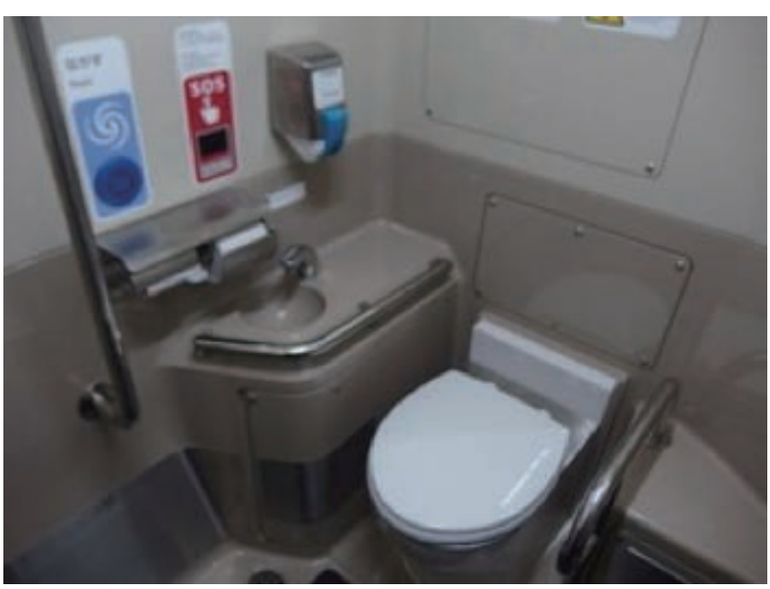


図 2．典型的なローカル線のトイレ
（宇野線「 “Urara”「227 系 500 番代）

図３．快適なトイレ（柏書房）本の表紙

連載4

日本トイレ協会40周年にあたり　「温故知新」～これまでの協会と今後～

山本耕平　運営委員 ／災害･仮設トイレ研究会代表幹事
（株）ダイナックス都市環境研究所代表取締役会長

阪神・淡路大震災のトイレボランティア

能登半島地震とトイレ

元旦早々に能登で大地震が起こってしまいました。連日、テレビではトイレのことが取り上げられています。阪神・淡路大震災のときは最低限必要な仮設トイレが行き渡るまで 2 週間ほどかかっていますが、プッシュ型支援（国が被災都道府県からの具体的な要請を待たないで必要不可欠と見込まれる物資を調達して支援すること）が行われた今回の震災では、災害・仮設トイレ研究会のメンバー企業からも国の要請に応えてただちに支援を開始し、携帯トイレ 43 万 7500 セット、仮設トイレ 331 台が現地に運び込まれたということです（1 月 8 日時点）。※プッシュ型支援は東日本大震災の教訓を踏まえて 2012 年６月に改正された災害対策基本法に盛り込まれ、2016 年４月の熊本地震で初めて本格実施されました。２月 15 日時点では、プッシュ型支援の内容はまだ発表されていません。

石川県のデータによると、下水道、集落排水、浄化槽などを含めて、令和３年度の水洗化率は七尾市 79.3%、輪島市 82.7%、珠洲市 73.0%などとなっており、断水でトイレが使えないという状況が全域に広がっています。下水道の普及率は地域によってそれぞれで、内灘町ではほぼ 100%、珠洲市や輪島市は 60%前後で、15 ～ 20%程度は合併浄化槽となっています。

内閣府のＨＰ、２月 13 日時点の被害状況によると、石川県内の下水処理場全 57 箇所のうち、被害無しが 32、機能確保済が 25 となっています。一方で各市町村が設置しているし尿処理施設は奥能登ではほぼ稼働停止となりました。管路の被害はまだ全体がわかっていません。

公共下水道の本管はだいたい路面から 3m くらいの深さに埋設されており、水道管より約 2m 深くなっています。そのため水道よりも下水道のほうが被害を受けにくいと考えられますが、能登半島地震では各地で液状化や土地の隆起が起こっているため、被害は大きいと推察されます。そのため下水道につないでいる水洗トイレは使えません。

浄化槽は地下の浅いところに埋設されているために、家屋が無事であっても地下の設備や配管が被害を受けるケースが少なくないようです。設備が無事であっても、停電によって曝気槽に送風するブロワが停止するため、汚水処理能力が低下し、未処理の汚水が放流されることになります。なお停電と断水が解消されて、微生物が再び活動を開始すると使えるようになります。

日本トイレ協会では携帯トイレの備蓄、マンホールトイレの整備など、災害への備えを啓発してきましたが、この惨状には忸怩たる思いがいたします。能登半島地震のトイレの実態について調査し、後の防災対策に活かしていくことがトイレ協会の使命だと思います。

さてそこで、本稿では過去の災害の教訓として、阪神･淡路大震災におけるトイレの実態とトイレボランティアの活動について記しておきたいと思います。

忘れられない「1．17」のこと

1995 年（平成 7 年）の１月 17 日、連休明けの火曜日、朝の 6 時頃に家の電話が鳴りました。朝霞に住む義妹から、神戸で大きな地震があったという知らせでした。妻の実家は兵庫区大開というところの商店街の一角にあり、実家は全壊でした。大開通という大通りが陥没して、下を走る地下鉄が駅ごと埋まってしまったところのすぐ近くです。通りの山側（神戸では南北を海側、山側と表現する）では大規模な火災も発生しました。さいわい両親は近所の人に助け出されて無事だという知らせでした。ちょうど義妹が引っ越ししたばかりで、機転が利いた義母が転居のはがき一枚を持って出て、10 円借りて公衆電話から電話してきたということです。10 円なので、とりあえず助かったという一言しか聞けなかったそうで、しばらくは連絡がつかずやきもきしました。

地震が起きたのは早朝５時 46 分、震源地は淡路島の北部で、地震の規模はマグニチュード 7.3 と推定されています。神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市、北淡町などでは最大震度７と推定されており、死者約6,500人（神戸市内 4,600 人）、全壊・全焼家屋 11 万戸（同６万 2000 戸）、半壊・半焼家屋 15 万戸（同５万 1000 戸）という大災害でした。

ちなみに震度は地震による揺れの大きさを表しており、震度 7 が最大です。阪神・淡路大震災ではじめて「震度 7」が適用されたそうです。能登半島地震でも震度 7 が観測されています。マグニチュードは地震のエネルギーの大きさを表しており、マグニチュードが 0.1 大きくなると地震のエネルギーは約 1.4 倍になります。能登半島地震は M7.6 で阪神・淡路大震災の約 3 倍になりますが、8 倍、9 倍の規模だとする研究者の発表が報道されており、輪島市で最大 4 メートルもの地盤の隆起が起こるなど、とてつもなく大きい地震でした。

なお「震災」とは地震によって引き起こされる被害のことを指し、阪神・淡路大震災を引き起こした地震は「兵庫県南部地震」、東日本大震災を引き起こした地震は「東北地方太平洋沖地震」です。（本稿を書いている 2 月 15 日時点では、能登半島地震に「大震災」の名称はつけられていません。）

倒壊したビル（兵庫区新開地）

解体作業中の妻の実家（兵庫区大開通）

トイレ支援の開始

神戸の現地に入ったのは、発災してから 10 日ほどたってからでした。両親の無事と実家の様子を見るために妻がなんとか神戸に帰り着いて、私は子どもの面倒をみながら、東京で神戸市役所の友人と連絡をとって支援物資の調達などの支援をしていました。現在のようにまだインターネットを使いこなす時代ではなかったので、現地とは基本的に電話でした。神戸市役所の友人と直通電話をとおして、支援物資を送りたい、こういう支援物資がほしい、という情報の仲介をする羽目になりました。

能登半島地震でも現地のニーズと支援のミスマッチが報道されていますが、神戸でも同じでした。全国から届く物資は郊外の大規模施設や市立大学の構内に集められましたが、膨大な量の物資をさばくことができず、苦労したそうです。運送会社など物流のノウハウがある民間の協力が不可欠というのがこのときの教訓です。

エピソードを一つ紹介すると、担当者から電話がきて「缶詰が大量にあるけれども缶切りがないので、送ってくれないか」と言われました。すでに救援物資として送られており、神戸市側も受け入れたことは確認できたのですが、どこに置いてあるかがわからないので、あらためて送ってほしいというのです。今はほとんど缶切り不要ですが、缶切りがないとせっかくの食べ物を被災者に配ることができません。そこで仕事でお付き合いがあった燕市の食器や日用品をつくっている金属加工の組合に連絡して、缶切り数千個をあらためて送ってもらいました。

トイレに関する物資の支援をしようと思って現地に問い合わせると、トイレットペーパーや紙おむつ、生理用品などの衛生用品は十分に足りているということでした。避難所で生理用品を配りまくってそのことを自慢げに書いた某作家がいましたが、基本的な物資はわりと早くに届いていたようです。

現地からは、トイレの衛生的な環境を維持するための資機材がほしいと言われました。具体的には掃除用のゴム手袋、火ばさみ、十能、デッキブラシ、足拭きマットなどです。マットはトイレの汚れを避難所に持ち込まないようにするためです。新聞紙を使っているということでした。支援したいという人にはこうした情報を提供しました。（飲料水は大量に届いているのですが、○○の名水をボトル詰めして送りたいというような話がよく来ました。飲むより出す方が問題なので、そっちを支援してほしいと申し上げましたが・・）

トイレ支援のための募金をつのったところ、西岡先生から 20 万円の寄付をいただくなど、約 80 万円が集まり、早速その範囲で変えるものを調達して送りました。川之江（現四国中央市）でトイレシンポジウムを開催したご縁で、現地の製紙会社からは追加のトイレットペーパーを 3 万 5000 ロール、横浜の故繊維の会社（ナカノ）からは暖かい衣類のほかに、掃除用のゴム手袋 1500 足を提供してもらいました。

トイレボランティアの準備

妻と交代で神戸に入り、神戸市役所に旧友を訪ねて被災地の状況を聞いてまわりました。トイレを担当しているのは汲み取り業務を担当していた環境局業務課高松作業所で、国際シンポをきっかけに発足した「神戸国際トイレットピアの会」の久保さん、井上さんと三人で兵庫区のはしっこまで歩いて行った記憶があります。担当の大下主幹、北尾係長（当時）にトイレの支援やボランティアの話をすると、避難所のトイレの状況がよくわからないので調べてほしいという申し出がありました。車庫の一角には組み立て式の災害用仮設トイレが積んでありましたが、どこの避難所にどれくらいの数のトイレがあって、どのくらい不足しているのか足りているのかわからない。汲み取りの依頼が来るが、区役所や自衛隊などいろいろなところが仮設トイレを調達して配置したため、実態がわからないので作業の段取りがつけられないということでした。
現地を見て回りましたが、せっかく設置した仮設トイレも、利用回数が多すぎて汲み取りもできず閉鎖されているところも少なくありませんでした。水洗化が進んでいた神戸市にはバキューム車が少ないという問題もあり、道路が寸断たれているので効率的に配車して作業する必要がありました。能登半島地震でもバキューム車の不足は大きな問題のはずですが、テレビ等ではあまり報道されていません。（神戸には汲み取り業者の団体である全国環境整備事業協同組合連合会（環整連）の岐阜県の組合がいち早く支援に駆けつけていた。「1959 年の伊勢湾台風のときに、神戸市からバキューム車が支援に来てくれたお礼だ」という義理堅い話を聞かされて感動した覚えがある。）

公共施設のトイレも断水しているのでほとんど使えません。神戸市役所は地下水を使っていたので使えたようですが、兵庫県庁のトイレはあっという間に使えなくなったという話を新聞記者から聞きました。神戸市内の避難所は約 600 カ所開設され、一時は 24 万人もの人が避難しました。長田区など被害が大きかったところでは数千人も集まったところもあって、当然それらの場所ではトイレが深刻な問題になっていました。少し時間が経過していたので、仮設トイレが少しずつ設置されてはいましたが、数の不足はもとより、衛生面や安全面でもいろいろな問題が起こっていました

トイレボランティアの準備

東京に戻ってからトイレボランティアの準備を始めました。93 年の神戸国際トイレシンポジウム参加者などに呼びかけの手紙を出すとともに、市役所の友人と相談して移動手段として自転車（倒壊家屋調査に使った自転車）を提供してもらうことや、トイレ調査の調査票や活動マニュアルの作成などの準備を進めました。個人的には妻の実家の解体や仮設住宅への入居などの手続きにも忙殺されていました。

その準備や調整に時間がかかり、ボランティア活動をスタートさせたのは2月18日でした。神戸駅近くの、港に面したハーバーランドの一角に 100 人近いボランティアが集まって、出陣式をやりました。市役所側でボランティアを支援してくれたのは、国際シンポを開催したときのキーパーソンである新屋さんと、同じ広報課にいた根来さん、ふたりとも私が神戸市役所に務めていたときの同僚です。自転車の手配や市役所内部での避難所との連絡調整などをしていただき、出陣式にも駆けつけてくれました。自転車のカゴに仮設トイレの便槽を均すための「均し棒」や清掃用具を積んで、颯爽と散開する光景はなかなかのものでした。

トイレボランティアの出陣式

市役所環境局からは仮設トイレの数や管理状況などの実態を調べることと、汲み取りが追いつかないので仮設トイレの便槽を均してくれるように避難所管理者を指導してほしいというミッションを与えられました。2 日ずつの活動を 3 回、東灘区、灘区、中央区、兵庫区、長田区、須磨区の 6 区の学校、公共施設などの避難所と公園、駅などのトイレ 228 カ所を回わりました。

私が見た公園のトイレは、おそらく子どもにさせたものと思いますが洗面台にまで大便がしてあり、便器の外まで汚物が堆積していました。電気、水道は復旧していたので、同行のトイレ清掃のプロの方々といっしょに掃除をしました。避難所となった学校でも、汚物まみれになって閉鎖されたトイレがあり、そのまま取り壊されたところもあったそうです。かなり時間がたっていたとはいえ、神戸市内のあちこちに「トイレサバイバル」の痕跡を見ることができました。

避難所のトイレ事情

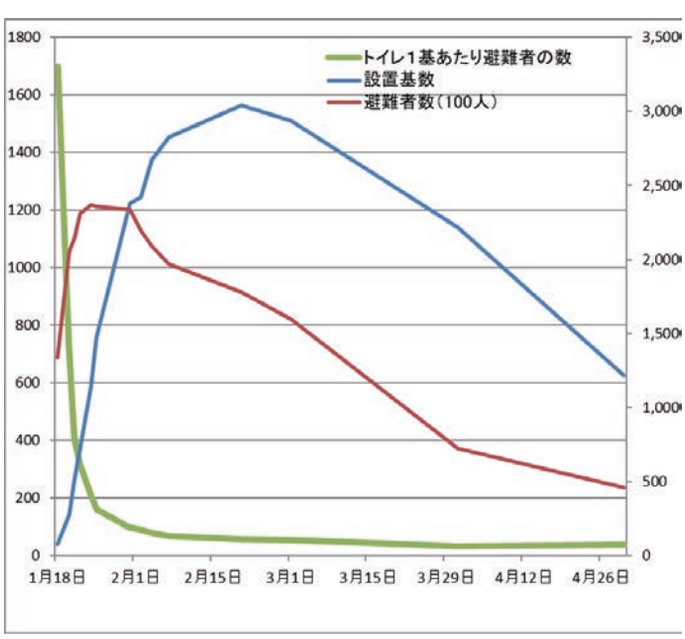
調査できた避難所は 202 カ所、数十人から 500 人を超える被災者が避難していました。もっとも多かったときは 1000 人～ 2000 人もの避難者がいた施設が 3 分の 1 ありました。この時点で水道は 63%、電気は 77%復旧していましたが、避難所（ほとんどが学校）のトイレが使えるところは少なく、仮設トイレで用を足していました。

仮設トイレは 1 月 18 日には僅か 79 基でしたが、市がレンタル会社に調達を依頼したもののほか、主に東海地方や首都圏の自治体などから災害用に備蓄してあった組立式トイレが届き始め、建設会社や民間会社からも提供があり、1 月 31 日には 2,381 基、2 月中旬には 3,000 基を超えました。

避難所の仮設トイレ（組み立て式トイレ）

当時の神戸市の担当者に聞いた話では、仮設トイレの便槽の容量 350 ㍑として一人 1 日あたりの平均的な尿と便の排泄量を 1.4 ㍑で計算すると 1 基で 250 回使える。そこで当面の設置目標を 250 人に 1 基として調達を進めたそうです。しかし市民の不満は一向に解消せず、150 人に 1 基、100 人に 1 基と順次目標を上げていった結果、概ね 100 人に 1 基になると苦情はだいぶ減ったといいます。最終的には避難者 70 人に 1 基という数になったといことで、この数字がしばらくは災害時の仮設トイレ調達数の目安となっていました。ちなみに現在の国の指針では、初動期は避難者約 50 人に対して 1 基、避難が長期化する場合は 20 人に 1 基という数字が示されています。

避難所の劣悪な環境が災害関連死の要因であるといわれていますが、避難所では体育館や教室の出入り口に高齢者がいるので、聞いてみたらトイレに近い場所がよいからということでした。長時間飛行機や列車に乗るときに通路側を選ぶ人がいますが、それと同じです。またトイレに困るから食べない、飲まないという人もいて、非常に深刻な問題だと感じました。避難生活によって健康状態が悪化して亡くなる「災害関連死」は大きな問題ですが、避難所のトイレ問題も要因の一つです。災害時のトイレ問題は大きな災害の度にとりあげられますが、能登半島地震でまたもや対策が後手に回ってしまいました。



神戸市内の避難者数と仮設トイレの設置数の推移（山本作成）

「災害トイレ元年」となった阪神・淡路大震災

阪神・淡路大震災は災害トイレに取り組むきっかけとなりました。阪神・淡路大震災ではさまざまなボランティア活動が展開され、ＮＰＯ法制定につながり「ボランティア元年」といわれます。その意味では「災害トイレ元年」といえるでしょう

当時は現在のような携帯トイレはほとんどなかったので、発災当初はごみ袋に新聞紙を入れたり、紙おむつやペット用シートを利用するなどの工夫でしのいだそうです。このことが携帯トイレの開発の契機になりました。

公園には穴を掘ってトイレをつくった跡もありました。長田区の学校では自衛隊が重機で掘ったトイレがありましたが、穴掘りトイレはかなり深く掘らないとすぐに一杯になってしまって、役に立ちません。学校の花壇に穴を掘って、サッカーゴールで囲いをつくったトイレもありました。

トイレのサバイバルをいろいろ見聞きしているなかで、道路のマンホール上に囲いを建てたトイレを発見しました。東日本大震災では浦安市で液状化によってマンホールが突出して、下水道が使えなくなってしまいました。能登半島地震でも液状化の被害がありましたが、阪神・淡路大震災では臨海地区の埋め立て地以外では少なかったので下水の本管は大きな被害は免れました。そこで広場や公園などの下水管の上にトイレ用のマンホールをつくっておいて、災害時には下水に直接落とすというアイデアを後日神戸市に報告し、マンホールトイレの開発につながりました。

断水中はプールの水を汲んできて水洗トイレを使ったという避難所もありました。一方ではプールの水は消火用として使わないようにし、神戸は六甲山から大阪湾まで短い河川が多くあるので、近くの川から水を汲んでいるというところもありました。災害時の水は飲用水より雑用水のほうが必要性が高く、確保が難しいのです。飲用水としてはひとり１日２リットルあれば足りるし、ペットボトルの水はすぐに届きますが、洗面や手洗い、掃除など身辺を清潔に保つための水、トイレの水や洗濯、風呂など生活用水の大半を占めている水の確保は難しい。その対策として、風呂の水をためておくなどの方法がありますが、私は雨水タンクで雨水貯留を勧めています。ちなみに私は 200 リットルと 150 リットルのタンクを二つ、自宅につけています。水道というライフラインに対して、雨水タンクは「ライフスポット」という考え方です。

実は私は、墨田区を拠点とするＮＰＯ雨水市民の会の理事長をしており、雨水タンクの普及と雨水活用の啓発活動をしています。墨田区向島地区と長田区真野地区は下町つながりで交流があったので、雨水タンクを長田区を中心に市内で 100 基を設置しました。94 年に「雨水利用東京国際会議」を墨田区で開催し、神戸市にも参加してもらった経緯もあったためです。この時期には雨はほとんど降りませんが、しばらくは給水タンクとして使ってもらい、その後は雨樋につないで雨水タンクとして活用してもらおうということです。

自宅の雨水タンク・天水尊
（神戸に設置したものと同じ）

ところで初期の混乱が落ち着くと、し尿の処理や「便袋」の処理が問題になりました。前述したように、汲み取りは全国の汲み取り業者や自治体の応援で対応していましたが、肝心の処理施設（下水処理施設）の被害が大きく、汲み取ったし尿も断水の解消とともに流れてくる汚水が処理できない状況でした。下水処理施設が復旧するまでの間は、固形分を沈殿させて未処理のまま消毒して大阪湾に放流したそうです。

「便袋」はごみとして収集し、焼却処理を行いましたが、普通のごみといっしょに出てくるために、収集時に袋が破裂して作業員が糞便を浴びたり、パッカー車の中が糞便まみれになったり、現場では衛生的に大きな問題になりました。担当者からは「携帯トイレを分別して平ボデーのトラックで収集すべし」という貴重な教訓をもらっています。能登半島地震では、避難所のごみ置き場に使用済みの携帯トイレとその他のごみを分別せずに山積みにしている場面をニュースで見ますが、ごみ収集が再開してからの収集作業員の安全衛生を懸念します。

携帯トイレの袋と一般のごみの袋は区別がつかないので、分別を徹底するためには携帯トイレはごみ袋と区別しやすい色の袋にしたり、目立つようなステッカーを貼るなどの工夫が必要だと思います。携帯トイレメーカーにはぜひ検討していただきたい。

阪神・淡路大震災で経験したことは、その後の災害トイレ対策に活かされています。紙幅の都合でこのあたりで稿を閉じたいと思いますが、さらに詳しい内容を知りたい方は、日本トイレ協会の会員ページのアーカイブで、「阪神大震災調査関係」に各種報告書を置いてありますので参照してください＊。また「阪神大震災トイレパニックー神戸市環境局とボランティの奮戦記」という本に、発災時からの対応をドキュメンタリー風にまとめていますので図書館等で見てください。2022 年に発刊した「災害とトイレ」（トイレ協会編、柏書房、2022）も読んでいただければと思います。

なぜか藤本義一さんの写真が帯に！

＊アーカイブの url
https://do-amenity.app.box.com/s/ah6vul3nfgaa3xp28o6umfxsi1zymmbj/folder/134314430632

お知らせ

2024年度　第40期　定時総会のお知らせ

2024 年度（第 40 期）定時総会のご案内をいたします。昨年同様、遠方の方にもご参加いただけるよう ZOOM を利用したオンラインも同時配信いたします

1　日時　2023 年 6 月 8 日（土）　13 時～　（受付　12 時 30 分～）
2　会場　文京シビックホール　会議室 1＋2
　　東京都文京区春日 1-16-21　文京シビックセンター内
　　（最寄駅）東京メトロ丸の内線・南北線　後楽園駅 5 出入口直結
　　都営地下鉄三田線・大江戸線　春日駅文京シビックセンター連絡口直結
　　JR 中央・総武線　水道橋駅　徒歩約 10 分
3　オンライン配信　ZOOM ミーティング
　　開催前日までに ZOOM 総会への参加招待をメール送付及び
　　HP 会員ページへの掲載により共有します。
4　表決方法
　　Google フォームを利用した事前表決または委任とします。
　　メール登録のない会員へはハガキにより事前表決をして頂きます。
　　また、当日会場参加される場合は受付を通過することにより、
　　事前表決は無効となり会場での議決権行使が有効となります。
5　プログラム
　　総　　会　13 時 ～ 14 時 45 分
　　記念講演　15 時 ～ 17 時
6　記念講演
　　テ ー マ　「トイレで渡米、トイレで入学！ 7 年間のトイレ研究記」
　　講　　師　原田 怜歩（らむ）さん　東京大学経済学部 3 年

2003 年生まれ。東京都出身。
幼少期に親友から受けたカミングアウトをきっかけに「トイレ × マイノリティ」をテーマにした研究を始め、16 歳の時に日本代表として 1 年間米国でトイレの研究留学。コロナ禍での緊急帰国後、日本に何か成果を還元したいと考え「SDGs を漫画で学べるトイレットペーパー」をクラウドファンディングによる資金を元に開発、全国の小中学校や公共施設に寄付。
上記活動が評価され、2021 年には「日本トイレ大賞」「世界を変える 10 人の 10 代」に選出。その後インクルーシブトイレの監修事業を立ち上げる。トイレの研究で、東京大学の推薦入試に合格する。

講演趣旨　原田さんは中学時代に留学先でオールジェンダートイレに興味をもち、研究活動や社会啓発活動をし、その成果が認められて東大に合格。講演では、その経緯や現在の活動についてお話をいただきます。2020 年に日本トイレ協会でも「若手の会 flash」が誕生し、大学生を中心とした会員の活動も活発になっています。トイレの未来を語り合う機会にしたいと思います。

※総会・記念講演終了後に懇親会を予定しています。
※正式な総会の開催通知は別途郵送にてお送りします。

メンテナンス研究会　第197回定例研究会報告

白倉正子　メンテナンス研究会　副代表幹事 / アントイレプランナー代表

紙面 DE 定例研究会！

今回は 2024 年 2 月 27 日に行った第 197 回定例研究会の様子をお伝えします！この日は神奈川県厚木市に 2022 年 10 月に完成した「厚木の杜 環境リサーチセンター」にお邪魔しました。こちらは日本トイレ協会の会員の管清工業（株）が運営していらっしゃいます。

■施設の公式 HP：https://www.kansei-pipe.co.jp/atsugi-forest-erc/

こちらの施設では「下水道の中の掃除の仕方」を学ぶことが出来るようになっています。下水道のことを知るために最終処分場を視察するチャンスは案外ありますが、私たちの足元の地中深くを流れている下水管の内側を清掃する状態を知る機会は皆無ですので、本当に貴重な機会となりました。

下水管が誕生した明治時代当時は、スコップのような道具を加工して、下水管の中のゴミや泥を除去していたそうですが、ひどい時には実際に人間が本管の中に入って、作業をしていたこともあるとか。最近ではカメラを搭載してタイヤを付けて自走する機械を作り、下水管の中を撮影した映像を地上で見ながら、遠隔操作を出来るように進化したそうです。

なお、訪問時は 2024 年 1 月 1 日に発生した能登震災の 2 か月後でしたので、震災時の下水道の管理について質問が飛び交いました。こちらの会社では、下水管の管理のプロフェッショナルが大勢現地に行き、連日調査をしているそうです。大きな振動で割れたりズレた下水管は、内部に包帯のような補強材を投入して、熱で温めて溶かし、冷却して固める方法があるそうです。これなら下水管を交換することなく、再利用できるので効果的！思わず「すごい！カッコいい！」と叫んでしまいました（笑）。

施設内にはこれ以外に、透明な床材で排水の様子が観察できる研修用の施設や、実際に下水管の中を歩ける体験ができる施設がありました。メンテ研の会員の大人たち 12 名が、子供のように興奮しながら歩いていました。それから 2023 年のグッドトイレ選奨にも応募された「水まもりトイレ」を拝見し、最後に記念撮影をしました。

下水管の中を撮影する自走カメラが展示

下水管の中を歩ける体験ができます

キレイなトイレで記念撮影

透明な床で排水管の状況が分かります

この施設は、震災があった時の避難所としても使えるようになっているそうです。誰でも無料で視察できるので、ぜひ一度訪問してみてください！（白倉正子）

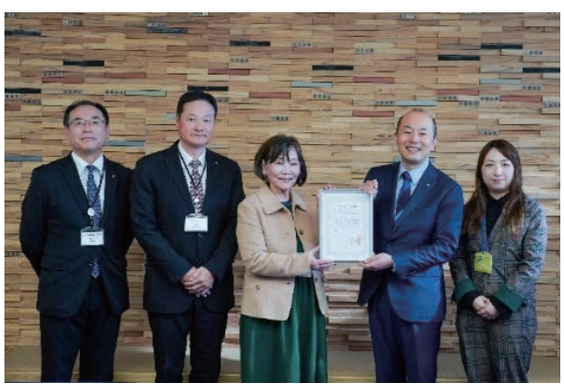
会員報告

長崎初の「4タイプの公衆トイレ」誕生！

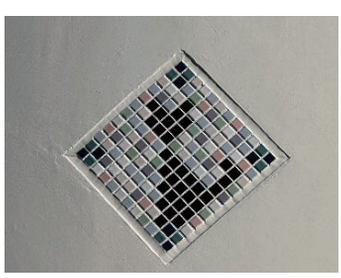
竹中　晴美　運営委員　広報渉外部/個人会員
みんなにやさしいトイレ会議　実行委員長

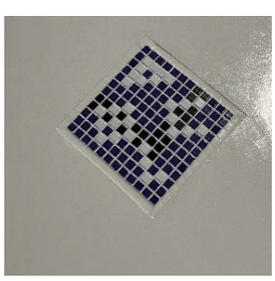
JR、バス、電車、様々な交通が行き交う長崎市浦上駅前広場に、ほっとひと息できる、長崎初の「４タイプの公衆トイレ」誕生！

大人から子供、お年寄り、身体の不自由な方まで、「みんなにやさしい使い勝手」を、使う側（トイレ会議）、設置する側（長崎市）、専門家、３つの視点で取り組んで 15 年目、「使い勝手の基本マニュアル」を提言した公共トイレの記念すべき
１４ヵ所目「新庁舎のトイレ」は、昨年末に日本トイレ協会「JTA 賞」受賞しました。今回の「浦上駅前広場内の公衆トイレ」は、担当課内の３グループによる「デザインのプレゼン」から始まりました。これまでの「箱もの的な公衆トイレ」のイメージを払拭させる「自由で楽しい外観」と、多様性の時代に沿った長崎では初めてとなる４タイプのトイレ（男子用・女子用・多目的トイレ・少し広めの男女共用）です。完成日のぎりぎりまで、担当者とともにフックの高さなど使い勝手などを最終チェック、２０２４年４月１日にお披露目となりました。



鈴木長崎市長へ受賞の報告
●「浦上駅前広場公衆トイレ」４タイプについて
①女子トイレ②男子トイレ③バリアフリートイレ（ユニバーサルシート採用の多機能）④すこし広めの男女共用（男女のピクトサインのみで名称を入れない）４タイプ
●遊び心として青空をみながら使用できる男子小用、見る角度で色が変化するガラスを採用
●基本マニュアルについて
①様々な場所に荷物かけフック②手すり③棚④ベビーキープ⑤前広便座（自己導尿患者のための）⑥ベビーシート
⑦オストメイト⑧ユニバーサルシート
●長崎らしさを伝える外壁のタイル・・・お曲がり猫・おくんち・山海・V・ファーレン長崎





完成時に関係者一同での記念撮影するのが定番？
（2024.3.21 現場にて）
（長崎市土木企画課、建築課、設備課、みんなにやさしいトイレ会議）

観光都市長崎にとって、トイレはまちづくり、おもてなしの基本です。再開発を迎えている長崎市浦上駅前広場は、JR、バス、電車が行き交い、さまざまな人が行き交うステーションでもあります。さまざまな人の想いに対応できる新しいタイプの公衆トイレとして、また、ちょっとほっとする場所として親しみをもってさまざまな方々に使っていただける公衆トイレだと実感しています。

私の
推薦トイレ

田中友統
運営委員 / ニッポー委員設備株式会社

推薦トイレ、ずばり当社にあるトイレたちです。

当社は東京都国立市（くにたちし）谷保と言う、中央自動車道国立府中インター降りて 30 秒、JR 南武線谷保駅徒歩 10 分のところにある、田園風景も少し残る場所にあります。国立市を一躍有名にしたのは、山口百恵さんが新居を構えたこと。当時は観光バスも来て、大騒動だったようです。
さて、そんなところを実はコロナ禍の緊急事態宣言中に 200 坪の土地を見つけ、2021 年 10 月より新社屋にて営業を始めました。女性社員 4 名、男性社員 10 名の 14 人の社屋に、小便器 2 台、大便器 5 台という通常ではありえない数のトイレを設置しました。一つ一つが個性を持っています。
まずは 1 階の土間エリア（靴を脱がないで入れる）トイレには、小便器 1 台、大便器 1 台があります。実は災害時のために井戸を掘っているのですが、井戸水を洗浄水に使っているのがこのトイレ。大便器の方は、TOTO の GG-3 という機種を使っているのですが、改造してもらい、通常給水が 1 本のところを、洗浄水（井戸）用とウォシュレット用（水道水）の 2 本を装着した珍しいトイレです。国立市谷保地域は多摩川沿いであるため、水が豊富な地域、洗浄水に水道水を流すなんてもったいないという私の気持ちのこもった大便器です。もちろん隣にある小便器も井戸水です。太陽光パネルと蓄電池を設置してあるので、災害時でも電気があり水があるこの環境を、地域に開放したいと思っております。
井戸水を洗浄水に使っているトイレはもう 1 か所あり、2 階の男子トイレの小便器です。男性が多いため、トイレでの洗浄水のほとんどを井戸で賄えていて、環境にも貢献できているのではないかと思っております。

さらに特徴的なトイレがありまして、世にも珍しい TOTO ネオレストの最高峰モデルの NX が、ショールームエリアのトイレとして稼働しております。いまだに売れたことは無いですが、やはり皆様に見ていただき、使ってもらい感動してもらっています。設置工事をした担当者は、その重量に驚いていて、2 階へ設置するには 3 人いた方がいいのではないかとのこと。サイズも大きいですが、設置するのも運搬するのも大変です。
最近設置したトイレは、TOTO の家庭用の壁掛けトイレ FD です。多目的会議室に隣接したトイレですが、宙に浮いた姿に皆さん感動してもらっています。LED 照明が照らす幻想的な空間演出と、個性的な趣、掃除がしやすいという実用面、素敵なトイレです。ただ、リフォームで設置する場合は、壁の補強が必要ですね。

番外編で、トイレ協会つながりで、マンホールトイレを総合サービスさんから購入しました。トイレシンポジウムで見させていただき、これからのマンホールトイレはこれだ！と思い、新妻社長に相談して購入しました。マンホールトイレはぼっとん型が多く、私が被災地を訪問する経験からやはり緊急用限定となってしまいますが、総合サービスの簡易水洗マンホールトイレであれば、さほど気にせず長く使えるのではないかと思っております。先日も地元国立市で行われた防災フェスタで展示したところ、多くの方が興味を持っていただき、座って水を流して体験してもらいました。
平時でも便利で、有事でも活躍する社屋を作りました。事業継続の観点からも、地域貢献の観点からも、素敵なトイレたちをぜひ見に来てください。

新 入 会 員 の ご 紹 介

新保　幸一さん
個人会員

Q1　トイレ協会に入会したいと思われたきっかけ、理由はなんですか？

トイレの設計、施工、メンテナンスに興味関心があるから。トイレに関する課題やその解決策に興味関心があるから。

Q2　どんなお仕事をされていますか？

建築設計事務所で顧問をしています。以前は学校施設に関する調査研究、基準作成、施設整備費補助などを行っていました。

Q3　会員として今後関わっていきたいことなどご自由にどうぞ

学校のトイレに関する様々な課題とその解決策。災害時の避難所のトイレに関する様々な課題とその解決策。

Q4　あなたにとってトイレとは？

人々の生活に欠かせないもの、建物の設計に不可欠なものにもかかわらず、今も様々な課題があり、その解決策が求められているもの。

小寺　定典さん
個人会員

Q1　トイレ協会に入会したいと思われたきっかけ、理由はなんですか？

ここ数回の全国トイレシンポジウムに参加させて頂き、また、オンラインセミナーも面白いテーマで開催されていることから、入会させて頂きました。

Q2　どんなお仕事をされていますか？

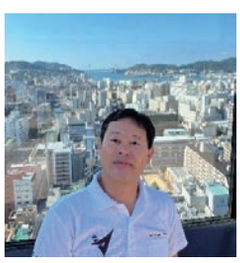
主に集合住宅の機械設備設計のコンサルティングをしています。最近では古い団地の給水埋設管の劣化診断手法検討、洗濯機の器具排水特性測定、新たな給排水システムの構築検討などを手掛けています。

Q3　会員として今後関わっていきたいことなどご自由にどうぞ

現役時代に、集合住宅に超節水便器の導入するにあたり、排水立て管システムの管内圧力変動や搬送能力の試験に携わったことから、トイレに興味が持ち始めました。
最近の関心ごとは、学校等に設置さたる防災トイレシステムを、発災後にどのような体制で使用しようとしているのか？10年前に小中学校の設計で採用し、少年サッカーの練習場にもあり、市民活動としての関わり方を当会の部会活動を参考にできればと思っています。

Q4　あなたにとってトイレとは？

毎日お世話になっているトイレ、それに纏わる方々のものづくりやメンテナンスの考え方など、広い視野で今後も関わって行きたいと思います。



吉野　直樹さん
個人会員

Q1　トイレ協会に入会したいと思われたきっかけ、理由はなんですか？

現在の仕事で、トイレに並々ならぬ情熱を持った方たちに出会い、昨年のトイレシンポジウムを経て、自分にもできることがあるのではと思ったこと

Q2　どんなお仕事をされていますか？

長崎市役所でまちづくりの仕事をしています。まちなかの公共トイレの整備については 、まちなかの賑わいを高め 、「歩いて楽しいまちづくり」を 実現するための重要な課題として、「まちぶらプロジェクト」に位置付けて、取り組んでいます 。

Q3　会員として今後関わっていきたいことなどご自由にどうぞ

長崎市の官民連携による公共トイレ整備の仕組みに、メンテナンスの視点を加えてバージョンアップするとともに、災害時におけるトイレの課題解決に注力していきたい。（日本トイレ協会と長崎市の連携協定や、トイレ専門のセクションの立上げ（係でも）もできたらやりたい。）

Q4　あなたにとってトイレとは？

人の歴史であり、なくてはならないもの。あまりにも存在が当たり前すぎてその重要性に気が付いていないが、安心して排泄ができる環境にほっとする時、自分が人（動物）であることに気づかせてくれるもの。

お知らせ

新刊紹介

当協会運営委員　村上八千世さんの新刊が３月に刊行されました。
「オープントイレ」で保育が変わる　トイレ環境から子どもの発達と主体性を支える
村上八千世　著、馬場耕一郎　監修　中央法規出版

著者　村上さんより
この本は保育園、認定こども園、幼稚園などの施設のトイレ環境について書いた本です。
子どもにとって行きやすいトイレを創造するために、保育や子育て関係者と設計関係者に読んで頂きたいと思い書きました。「オープントイレ」とは「子どもにひらかれているトイレ」です。
保育現場では子どもの排泄ケアは一番手間も時間もかかる作業です。
しかし同時に、排泄をケアする時間は保育者と子どもの信頼関係を深める大切な時間でもあります。
遠く、使いづらいトイレでは保育者はたくさんの子どもを一度にトイレまで連れてゆき、順番に用を足させて保育室に戻ります。
トイレに行きたくない子もしかたなく連れていかれます。
子どもが興味をもって主体的にトイレへアプローチできる環境があれば、大人が手や口を出さなくても、子どもは自分で工夫して試し、自身の身体と対話しながら「排泄する」ということを学び取っていきます。
子どもが行きたいときに、やりたい方法で、やりたいだけ時間を使えるという条件が揃えば自ずと自立へと向かっていくはずです。
これから開園する施設でさえも、０歳児クラスにトイレがなく、オマルも使わないところはたくさんあります。
本書が保育施設のトイレ環境を改めて考え直すきっかけになれたら大変幸せに存じます。
よろしければ、ぜひお読みください。

特別価格　2，376 円（１割引き）
お申し込み方法（フォームス）：https://forms.gle/yx2Zv3ZQfsDzVXWz8

著者：村上八千世さん　運営委員　常磐短期大学 准教授/アクトウェア研究所 主宰

事務局からのお知らせ

年会費納入のお願い
2024 年度分年会費の請求書をお送りしています。
内容をご確認の上、期限までに指定の口座まで納入をお願いします。

納 入 期 限　５月３１日（金）
納入先口座　三菱 UFJ 銀行　春日町支店（店番号 062）
普　　通　０８２４００４
名　　義　一般社団法人日本トイレ協会
＊恐れ入りますが振込み手数料のご負担をお願いします。

一般社団法人日本トイレ協会
JAPAN TOILET ASSOCIATION

〒112-0003
東京都文京区春日1-5-3春日タウンホーム1F-A
jimukyoku@j-toilet.com

https://j-toilet.com/ 検索

広報部提案＆推薦！出ました試作ピンバッジ！スッキリ爽やかなデザイン、よく見ると便器やピクトグラムサインが隠れています。ＱＲコードとして公式サイトへ飛べます！投稿して下さった方々へのお礼としてお送りします。
サイズ：19mm×19mm

編集後記

能登で被災した知人から体験談を聞きました。「山戸さん、トイレが一番困るんですよ」と改めて強調されました。携帯トイレを自分で準備するのは当然として、それ以上に仕組みなどシステムが必要だと感じます。民間レベルで私達が協力してできる事が何かあるのではないか？と。（山戸伸孝）

当協会メンテナンス研究会「30 周年記念サイト」が公開されました。研究会発足（1992 年 4 月 1 日）から約 32 年間、坂本菜子初代代表・中森秀二現代表をはじめ、歴代スタッフメンバーが、汗と涙 (？) で紡いできたトイレメンテナンスのノウハウ。そのノウハウは、日本、いや世界最先端といっても過言ではありません。タイトル：「人とものと水との関わり」 公開日：2024 年 3 月 URL：https://www.toiletmaintenance.org/hito_mono_mizu/（新妻普宣）

私の経験上、今一番災害時のトイレ問題に関心があるような気がします。今こそ官民にて色々と考え、実行するときではないかと思います。(谷本亘)

今回からメンバーに入れていただきました。不慣れですが精一杯努めますのでどうぞよろしくお願いいたします。（佐分利恵子）

トイレは日用品扱いなので経済省（危機管理ではない？）洋式便器は、和式の 3 倍の価格！だから使う人が少なくても和式が設置される。また視覚障害者の方の災害時におけるトイレの悲惨な状況を今更ながら知りました。災害時のトイレについては、行政が日頃からもっと真剣に取り組むべきです。と思っていても危機管理課？地域整備課？障害福祉課？どこへ伝えればよいのでしょうか・・・（竹中晴美）

コロナ感染し、3 日間ほどですが、パンやおにぎりを食べる日が続きました。その後、暖かいものが食せた時は忘れられません。出すことももちろん重要ですが、食べることも合わせて、取り組んでいけたらよいですね。（浅井佐知子）

4 月から山形に引越しをしました。大学を卒業して５回目。幼い頃からカウントすると 9 回目の引越し。生涯の引越しは多くて１０回と聞いたことがあります・・・あと何回引越しがあるのか楽しみです。引越しのたびに家に対するこだわりが無くなります。（高橋佳乃）

毎年 4 月は総会の準備と協会ニュースの発行があり事務局は大忙しですが、ニュースは数年前から広報部会の編集チームが結成されて、忙しい中でも女子 3 名で楽しみながらやっております。高橋志保彦名誉会長の「よもやまトイレ談議」第４回が間もなく完成します。今回は山本耕平運営委員との対談です。お楽しみに！（小澤美紀）